

N
ONE
e:



PRESS INFORMATION 2025.9.11

カーボンニュートラル社会へ向けた、あたらしいベーシックカーをめざして。

Hondaは、カーボンニュートラルへ向けた取り組みの一環として、EV(電気自動車)の普及に大きく舵を切り、事業を進めてきました。近年、普及の前提となるEV市場は、各地域で拡大スピードを鈍化させていますが、長期的視点ではEVが最適解であると考えています。そうした考えのもと、日本におけるEV普及を加速するモデルとして開発したのが「N-ONE e:」です。

1967年、Hondaは自社初となる軽乗用車N360を発売しました。N360は、当時の常識をくつがえす広さと走り、そしてお求めやすい価格でまたたく間にマイカーブームの主役となり、多くのお客様に「クルマがある生活」を提供しました。

そして2025年、Hondaは、N360のDNAをもっとも色濃く受け継ぐN-ONEをベースとした軽乗用EV「N-ONE e:」を皆さまにお届けします。より環境負荷軽減が求められる時代においても自由な移動の喜びを提供し、人の役に立ち、驚きや感動をもたらすような新価値の創造をめざしていきます。



N-ONE e: 2025年

初代N-ONE 2012年

N360 1967年

CONTENTS

はじめに	デザイン	Honda SENSING/安全性能
開発にあたって	パワーユニット	主要装備
開発コンセプト	ダイナミック性能	主要諸元/環境仕様
N-ONE e: の魅力	Honda CONNECT	
P2	P6	P30
P3	P15	P33
P4	P21	P34
P5	P26	

日本のEV移行期を牽引する身近なEVの創造。

日本におけるEVの普及率は世界的にみて低い水準にあります。一方、軽自動車は、お求めやすい価格や維持費の安さ、取り回しのよさから日常の移動手段として定着し、近年では国内新車販売台数の3台に1台を超える※ほどの人気を博しています。

N-ONE e: の開発にあたっては、EVに対する不安を取り除き、軽自動車本来の魅力である身軽さや経済性を、電気の子カラでより際立たせることをテーマとしました。市場調査から、EV普及のカギは航続距離や充電環境にあることがわかってきました。そこで、航続距離や充電性能、充電関連サービスを向上させ、お客様のEVに対する不安を払拭することをめざしました。

近年、プライベート重視の価値観や、シンプルな良品を長く愛用する傾向が強まっています。N-ONE e: は、そうしたお客様に応えるために、シンプルで使いやすい飽きのこないデザインを取り入れました。N-ONE e: がお客様の日常をよりよくするパートナーとなり、日本におけるEV普及を加速させるきっかけとなることを願っています。



何気ない毎日をイキイキと活発にしてくれる「日常のパートナー」をめざして。

開発のベースとなるN-ONEは、クルマとしての本質的な価値と魅力を磨き上げることで、日本におけるベーシックカーの在り方を提案し続けてきました。それだけ完成度の高い軽乗用車に、EVならではの価値を組み合わせれば、もっと身軽にもっと気軽に毎日を楽しんでいただけたと考えました。力強くクリーンな走りでN-ONEの身軽さをさらに際立たせ、お客様の

行動範囲やコミュニティとのつながりを広げていただきたい。アイドリングレスの静かな室内で、気軽に自分時間を楽しんでいただきたい。お客様の何気ない毎日を、よりイキイキと活発に変えていく、日常のパートナーでありたいという思いから、N-ONE e: の開発コンセプトを「e: Daily Partner」と決めました。



何気ない毎日を イキイキと 活発にしてくれる

N-ONE e: の魅力

魅力1

いつもの街、いつもの道。
安心して乗れる、軽EVトップ※1の航続距離。

買い物、仕事、送り迎えに。一回の充電でたっぷり走れて、日々のお出かけがもっと楽しくなる。

一充電走行距離^{※2}
(国土交通省審査値) ^{※3}
295 km

魅力2

坂道もスイスイ！
気持ちとつながるような頼もしい走り。

坂道も街なかも、高速道路でも。走り出しのスムーズな加速が日々のお出かけを身軽に。アクセル操作に素直に伝えてくれて、ぐっと背中を押してくれる頼もしさ。



魅力3

電気で走るから
静かで会話はずむ。

すぐれた静粛性で、日々の移動を快適に。友達や家族との会話はずむ。お気に入りの音楽だって心地よく楽しめます。



魅力4

アクセルペダルだけで
いつもの道もラクに運転。

ボタンひとつでシングルペダルコントロールに切り替え。ブレーキペダルへの踏みかえなしで加減速をコントロールでき、運転がもっとラクに。スーッと止まれるのが気持ちいい。



魅力5

運転していない
時間も快適に。

EVは停車中も排気ガスゼロだから、お出かけ先でもエアコンをつけたまま快適に過ごせる。ちょっとした待ち時間も、ゆっくりコーヒーを飲んだり音楽を聴いたり、自由な自分時間になります。



魅力6

まさに走る蓄電池。クルマから電気を取り出せる。

お出かけ先でも気軽に電気が使え。災害や停電など非常時の電源にもなるから「備えない防災」にも。

■ 外部給電には別途、ディーラーオプションのAC外部給電器「Honda Power Supply Connector」が必要です。



魅力7

かしく、便利に！暮らしに「エネマネ」発想を。

電気代の安い深夜に充電するなど、電気料金プランによっては光熱費を節約できるのがEVのいいところ。さらにV2H※4（ビークル・ツー・ホーム）と組み合わせれば、EVを住宅用蓄電池として活用することも。暮らしのコストをトータルに設計すれば、節約も快適ももっと加速しそう！

※1 2025年9月現在、Honda調べ。

※2 一充電走行距離は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞等）や運転方法（急発進、エアコン使用等）に応じて一充電走行距離は大きく異なります。

※3 WLTCモード：市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。

※4 EVを住宅用蓄電池として活用するシステム。

デザイン



長く愛されるクルマをめざし、シンプルな魅力を追求した「軽快ナチュラルエクステリア」。

エクステリアデザインは、丸形ヘッドライトを代表とするNシリーズの特徴を受け継ぎながら、カーボンニュートラルの時代にふさわしいクリーンさの表現をめざしました。「軽快ナチュラルエクステリア」をコンセプトに、加飾などのデザイン要素に頼ることなく、長く愛される魅力

を追求。自然体で過ごせる身近さと、活発な毎日を後押しする軽快さを兼ね備えたデザインとしています。



■活発な毎日を後押しする「軽快フォルム」

N-ONEに対しフロントフードの水平基調を強めるとともに、テールゲートを刷新し上部のボリューム感を増加。リアまわりの視覚的重心を高めることで、前方に向かって押し出されるような前進感を表現しました。

■よりニュートラルに進化した「愛着フェイス」

親しみやすいシンプルなフロントマスクに、伝統の丸形ヘッドライトを進化させて採用。お客様の気分寄り添い、長く愛していただけるデザインをめざしました。



■さまざまなシーンや服装に似合う「つるんとサーフェイス」

EVならではのクリーンさを感じさせ、なおかつ、さまざまなシーンや服装に似合うデザインとするために、シンプルな面質を追求しました。なかでもテールゲートは、曲率を高め強い張りを持たせることで豊かな丸みを創出。リアバンパーはコーナー下部をフェンダーに沿って丸く絞り、リアビューにおける後輪の見え量を増やすことで安定感を強めました。



親しみやすさと先進感を追求したディテールデザイン。



ポジションランプ /
デイトタイムランニング
ランプ

ターンランプ

ハイ/ロービーム +
デイトタイムランニング
ランプ

■ヘッドライト

丸形を継承したうえで、より先進的な表現をめざしました。N-ONEの特徴である円形のデイトタイムランニングランプは、つながった円ではなく3分割でリングを形成。デジタル時計の7セグメントディスプレイ※を思わせるモダンなデザインとしました。ヘッドライトには、反射板や遮光板を用いず、レンズの作用のみで集光・遮光を行うダイレクトプロジェクション式LEDを採用。



※ 7つのセグメントを個別に点灯/消灯することでアラビア数字を表現する装置。



■ホイール

◀ 14インチアルミホイール(e: Lタイプに設定)

N-ONE (Premium)のホイールをベースに、非切削部のカラーをブラックからピューターグレーに変更。切削スポークのヘアラインシルバーとのローコントラストな組み合わせで、上質感と精緻感を表現しました。



テールランプ

ターンランプ

ストップランプ

■リアコンビネーションランプ

N-ONEのデザインを継承しながら、最外周のアウトターレンズにホワイトタイプを採用することで、EVのクリーンさを表現しました。



◀ 14インチスチールホイール+ハーフホイールキャップ(ピューターグレー)(e: Gタイプに設定)

シルバーのホイールとグレーのキャップというローコントラストのコーディネートとしました。自然体で過ごせる身近さを醸し出すとともに、汚れの目立ちにくさにも配慮しています。

活発な日常を後押しするボディーカラーと環境にやさしいサステナブルマテリアル。

■ボディーカラー

新色チアフルグリーンを中心に、暮らしに
なじみながらも、乗る人の気持ちが
晴れやかになるような
軽快なカラーラインアップを
追求しました。



NEW

▲チアフルグリーン

気持ちをイキイキさせる、追い風のような爽快グリーン。青みのある彩度の高いグリーンとし、光輝材を用いずダイレクトに色を伝えることで、視覚的に元気になれるカラーとしています。



▲プラチナホワイト・パール

上品な深みと輝きを感じさせるホワイト。



▲ルナシルバー・メタリック

夜に浮かぶ月のように、陰影のなかに輝きを放つダークなシルバー。



▲フィヨルドミスト・パール

明るく豊かな暮らしになじむ、やわらかなブルー。



▲シーベッドブルー・パール

海底のような静かさを思わせるゆったりとしたブルー。

<サステナブルマテリアル>

N-VAN e: でスタートした、バンパーリサイクル材の意匠部品への展開を、N-ONE e: でも行いました。Hondaは、1990年代から約30年にわたってバンパーリサイクルに取り組んできました。従来は、お客様の目に触れない部分にリサイクル材を使用していましたが、N-VAN e: からは、環境にやさしいクルマの象徴として意匠部品への採用を積極展開しています。N-ONE e: では、リサイクル材が含まれていることがわかる塗膜のカケラである塗料粒子を、N-VAN e: に対し大きくすることでデザイン性を向上させ、フロントグリルに採用。環境への配慮をよりわかりやすく表現しました。



<バンパーリサイクルの流れ>

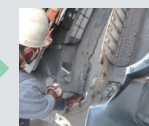
役目を終えたHonda車のバンパーをHondaが責任を持って回収。異物の除去、洗浄、粉砕などを行ったうえで原料化し、新たな部品に生まれ変わらせます。



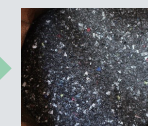
① バンパー回収



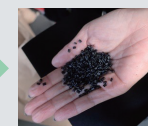
② 集約



③ 検品・異物除去



④ 洗浄・粉砕・塗膜剥離



⑤ コンパウンド・ペレット化

身軽・気軽に毎日を楽しんでいただくための「軽快ナチュラルインテリア」。

インテリアデザインは、エクステリアと同じ「軽快ナチュラル」をキーワードに、毎日、自然体で使えるシンプルさと使いやすさを重視して開発しました。軽自動車は、日常の買物や通勤・通学、趣味・レジャーなどさまざまな目的で、かつ、高い頻度で使われています。平均走行距離

からも、いわゆる生活圏内の移動が中心であることがわかっています※。そうしたお客様がストレスなく使いこなせるよう、身軽さと気軽さの創出を心がけました。

■広さ感とすっきり視界を追求した「身軽空間」



●広さと軽やかさを感じさせるインストルメントパネルまわり

毎日の使いやすさを考慮し、機能を必要十分に抑えることでシンプルなデザインとすっきりした視界を追求しました。インストルメントパネル上部を横一直線で造形し、ステアリングホイールには2本スポークタイプを採用しました。これらにより横基調を強め実寸法以上の広さを感じさせています。同時に、インストルメントパネルとステアリングホイールのセンターパッドを明るいグレーで統一し軽やかさを感じさせています。



●運転のしやすさに配慮した前方視界

インストルメントパネル上面を可能な限りフラットな面で構成し、視覚的ノイズの少ないすっきり視界を追求しました。また、フロントフードの視認性を高めたほか、フロントウインドウとサイドウインドウの下端ラインを段差なくつなげることで、車幅感覚をつかみやすく、誰でも運転のしやすい視界を実現しています。

※ 一般社団法人 日本自動車工業会「軽自動車の使用実態調査報告書 2024年3月」ほか統計資料より。

身軽・気軽に毎日を楽しんでいただくための「軽快ナチュラルインテリア」。

■操作や出し入れが迷わずできる「気軽な使い勝手」



●スイッチレイアウト

エレクトリックギアセクターを採用し、電子制御パーキングブレーキやエアコンスイッチと合わせて、左手が届きやすい位置に機能ごとに集約。使いたい機能のスイッチを、迷いなく選択できます。



インパネワイドトレイ



ドリンクホルダー(運転席)



センターロングコンソールトレイ
+ドリンクホルダー



ドアロングプルポケット

●手軽に荷物を置き・取りできる ユーティリティ

運転席から手の届きやすい位置に使い勝手のよい収納スペースを設けました。インストルメントパネルにはワイドトレイを設け、運転席寄りにスマートフォンが平置きできるくぼみを用意。センターコンソールには、トートバッグなどがすっぽり収まるロングトレイを設定しました。ドアにはロングプルポケットを設け、長財布などの小物が気軽に置けるようにしています。

■目的の操作や行動に自然と導く「暮らしになじむディテール」



角丸四角のモチーフを随所に採用し、やわらかでニュートラルなイメージを演出するとともに、目的の操作や行動が特に注意を払わなくてもできるよう造形と加飾に工夫を凝らしました。エレクトリックギアセクターやドアのロングプルポケットは、大きな塊のなかに削り処理を施し、スイッチや指かけ位置を認識しやすくしました。「D」スイッチやエアアウトレットなど運転中の操作が想定される箇所には、間接視野で視認しやすいよう加飾を施しました。

身軽・気軽な移動に求められる機能を吟味した、わかりやすい情報提供。

メーターやナビ・オーディオは、わかりやすさを重視して開発しました。メーターには、「シンプル表示」が提供できるフルグラフィックメーターを採用。ナビ・オーディオは、お客様がライフスタイルに合わせて選択できるよう設定しました。

■7インチTFT液晶メーター



必要最小限の情報に絞り込んだ「シンプル表示」を基本に、多彩な情報から必要な情報を選択して表示できる「インフォメーション表示」に、ステアリングスイッチで簡単に切り替えられます。

●シンプル表示

速度や現在時刻など、運転と行動に必要な最小限の情報を表示。画面の自車は実際の車両と連動してランプ類が点灯し、Honda SENSINGによるブレーキ作動なども確認できます。



●インフォメーション表示

オドメーター、タコメーター、平均車速、燃費（平均/瞬間）、推定航続可能距離、などから、必要な情報を選択して表示できます。



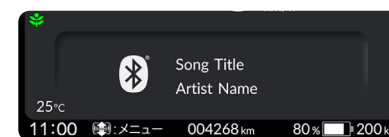
●バッテリー残量／航続可能距離表示

EVとして重要なバッテリー残量と航続可能距離をシンプルに表示します。バッテリー残量表示は、残量を直感的に認知できる乾電池型インジケーターに加え、残量を正確に把握できるパーセント表示を採用し、充電の必要性をよりの確に判断できるよう配慮しました。



■Bluetooth®接続によるシンプルなオーディオ(e: Gタイプ)

ナビやディスプレイオーディオが非装着のe: Gタイプは、Bluetooth®対応オーディオを標準装備しました。スマートフォンで再生できる楽曲を車載スピーカーで楽しむことができます。メーターディスプレイには曲名やアーティスト名などを表示します。



普段づかいを考慮したカラー&シートと環境にやさしいサステナブルマテリアル。



■インテリアカラー／素材

インテリアカラーは、明るい印象で飽きの来ないグレースを採用。シート表皮には複数の色糸を混合したファブリックを全席に採用し、奥行き感のある上質なイメージと汚れの目立ちにくさを両立させました。前後席共通ファブリックとすることで統一感を高めています。また、シートベルトやサイドエアバッグのタグなど要所にブラウン系のアクセントカラーを施しぬくもりを与えました。



■フロントシート

普段づかいを想定し、座面をシームレスな面と表皮で構成することで乗り降りがしやすいシートとしました。また、N-ONEに対し座面後端の高さをアップし、背もたれの形状やウレタン硬度を変更することで、より疲れにくいシートとしています。



< サステナブルマテリアル >

● バイオエンジニアリングプラスチック「DURABIO™」※の採用

Hondaの四輪車として初めて、再生可能な植物由来原料で作られたプラスチック「DURABIO™」を、インストルメントパネルのアクセント用部品に採用しました。石油消費量の削減に加え、原料となる植物が成長過程で二酸化炭素を吸収するため、温室効果ガスの低減にも貢献します。



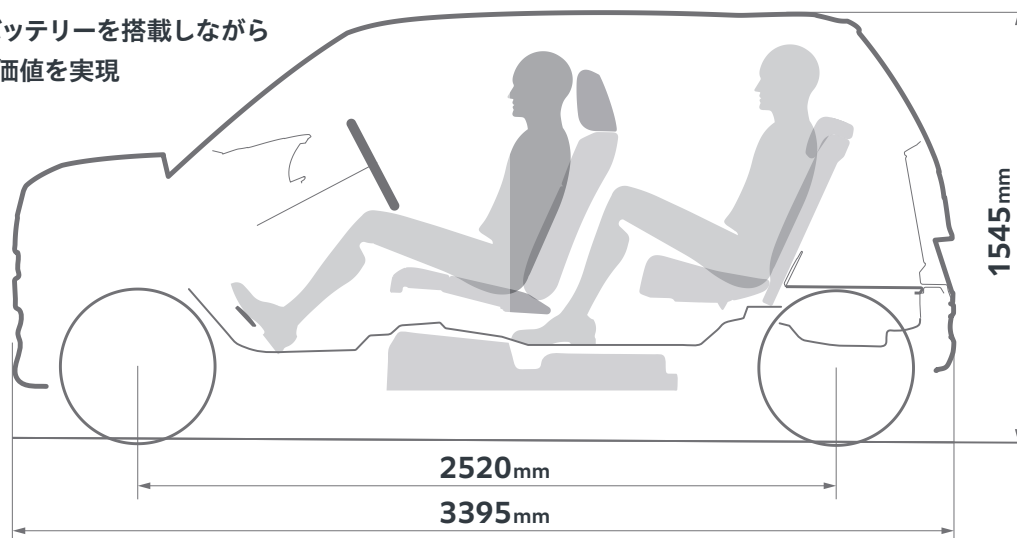
● リサイクル材の適用拡大

フロアカーペットにリサイクルPET素材を採用したほか、テールランプのレンズを回収しドアバイザー（ディーラーオプション）に再生。さらに、役目を終えたHondaの作業着をインシュレーターに利用するなど、リサイクル材の適用を積極的に拡大しました。

※ DURABIO™は三菱ケミカル株式会社の登録商標です。

N-ONEが持つ扱いやすさ・空間価値を継承しながらEV化。

■ 床下に大容量のバッテリーを搭載しながら
N-ONE同様の空間価値を実現



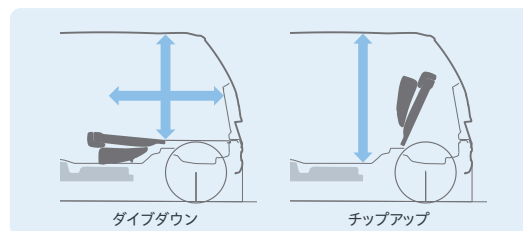
パッケージデザインは、EVに必要な大容量バッテリーを床下に搭載しながら、N-ONEの優れた取り回し性と空間価値を守り切りました。きめ細かな工夫を積み重ねることで床面の上昇を最小限に留め、立体駐車場に対応する全高をキープしたほか、多彩なシートアレンジもそのまま継承。そのうえで、「日常のパートナー」としての使いやすさを、より高めています。

■ ほとんどの立体駐車場に対応※

一般的な機械式立体駐車場の高さ制限(1,550mm)以下の全高1,545mmをキープ。街なかでの駐車場の選択肢が広がり、気軽にショッピングに出かけられます。

■ リアシートダイブダウン&チップアップ機構

薄型化した大容量バッテリーを床下に搭載。ダイブダウン機構とチップアップ機構をN-ONEと変わらず使うことができます。



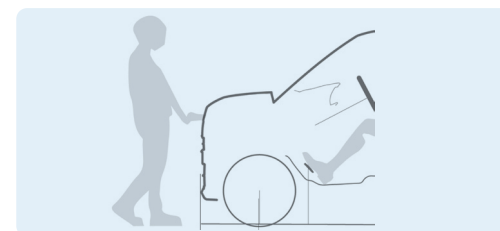
■ より自然な運転姿勢

ステアリングホイールを37mmドライバー側に移動し、より自然な運転姿勢が取れるようにしました。



■ 使いやすさに配慮した充電ポート配置

充電時の利便性を考慮し、充電ポートをフロントの作業しやすい高さに設けました。充電中もケーブルを気にせずドアの開閉や荷物の積み降ろしができます。



※ すべての立体駐車場に入庫可能とは限りません。
また車両の状態により、表示上では入庫可能な駐車場でも、車高検知センサーによる警告や車高制限バーへの干渉で入庫できない場合があります。

パワーユニット



N-ONEの身軽さ・気軽さをそのままに、余裕の航続距離と優れた使い勝手を徹底追求。

パワーユニットは、N-ONEの特長である取り回しのしやすさや優れた空間価値を守りながら、普段づかいに十分な航続距離と充電時の利便性を兼ね備えることを目標に開発しました。

小型コンポーネントと大容量バッテリーを採用し、WLTCモードで295km^{※1}の一充電走行距離を達成しています。



■信頼のおける航続距離

高エネルギー密度リチウムイオンバッテリーの採用により、軽量・コンパクトでありながら29.6kWhの大容量を確保。普段づかいに余裕のある航続距離を実現しました。



■空間価値の最大化

軽量・コンパクトなバッテリーに加え、e-Axle^{※2}や補機デバイスの小型化・集中配置などにより、N-ONEの空間価値を守りながらEV化を実現しました。



■ストレスフリーな充電

上限6kWの普通充電と、上限50kWの急速充電に対応。充電ポートの配置や充電リッドのロック解除方法にも工夫を施しました。



■どこでも自在に給電

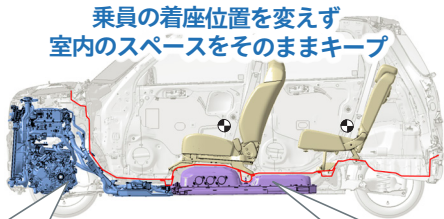
Honda Power Supply Connector (パワーサプライコネクタ、別売)を利用すれば、お出かけ先で最大1500Wの給電が可能。万一の災害時には非常用電源になり安心です。

※1 国土交通省審査値。WLTCモードは市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。
※2 モーター、ギアボックス、インバーターを統合した駆動ユニット。

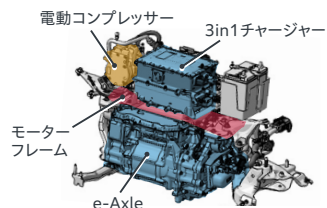
N-ONEの優れた空間価値や取り回しのしやすさをそのまま継承。

■パワーユニット配置 (N-ONE 比)

乗員の着座位置を変えず
室内のスペースをそのままキープ



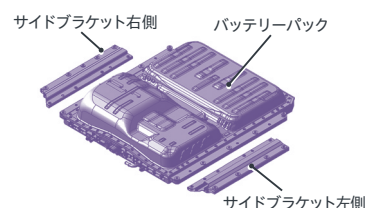
高電圧部品を
小型化・集中配置することで
室内空間をキープ



●フロントユニットの小型化・集中配置

N-ONE ガソリン車のパワーユニットで使っていた空間内に、e-Axle、3 in 1チャージャー※2、補器デバイスを小型化かつ集中配置することで、優れた空間価値をそのまま継承しました。

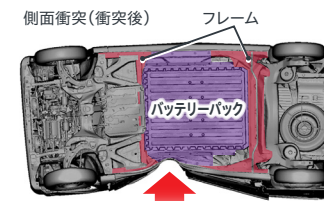
フロア下スペースに
バッテリーを搭載することで
ヒップポイントをキープ



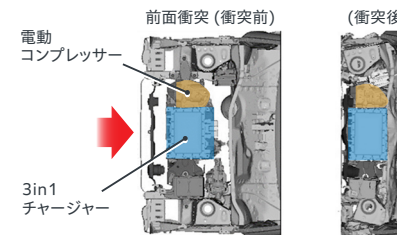
●薄型バッテリーパック

駆動用のバッテリーパックには、高エネルギー密度の薄型タイプを採用。大容量でありながら室内空間への影響を最小限に抑え、N-ONEと同じヒップポイント高さとヘッドクリアランスを実現しました。

■高電圧部品保護構造



側面衝突(衝突後) フレーム
バッテリーパック
強力なフレームによりバッテリーを保護



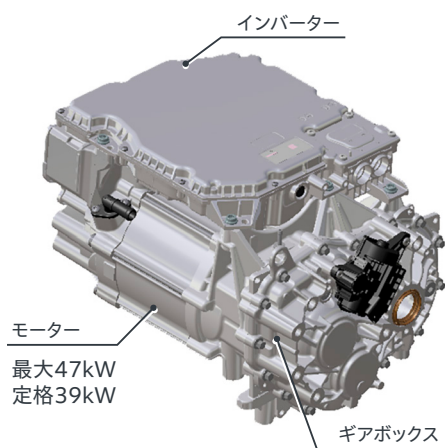
前面衝突(衝突前) (衝突後)
電動コンプレッサー
3in1チャージャー
部品をすれ違わせることにより高電圧電気部品を保護

バッテリーパックの保護では、サイドブラケットに衝突エネルギー吸収部材としての機能を持たせることで、ボディーフレームとバッテリーパックフレームで荷重を分散させ、万一の側面衝突時にも内部のバッテリーセルに力が加わらない構造を追求しました。フロントのe-Axleや高電圧補機類に関しては、部品の配置を工夫することで前面衝突時に部品どうしがすれ違う構造とし、高電圧部品の保護と広い室内空間の確保を両立させました。

※1 「人のためのスペースは最大に、メカニズムは最小に(マン・マキシマム / メカ・ミニマム)」という、「人が中心」の発想で取り組むHondaのクルマづくりの基本思想。

※2 車載充電器(OBC)、12V DC-DCコンバーター、ジャンクションボックスを一体化した統合型電力変換装置。

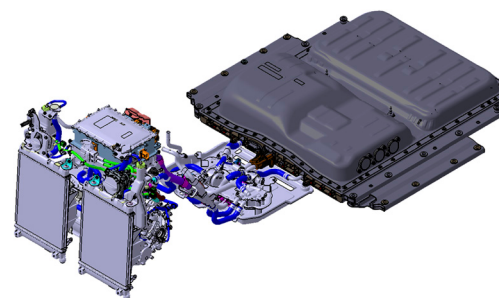
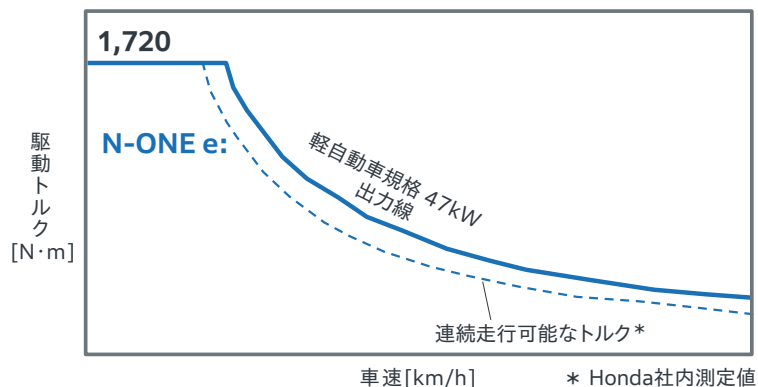
スムーズで力強い走りとゆとりの航続距離をもたらす高効率パワーユニット。



■ 余裕の走りをもたらすe-Axle

e-Axleの駆動用モーターに小型高回転タイプを採用。ギアボックスの最終減速比を低く設定することで、最大162N・mのモータートルクに対し、タイヤが路面に伝える駆動トルクはクラストップレベル※1の最大1,720N・mを達成しました。これにより、大人4人で乗車していても日本各地の急坂をストレスなく登れる性能を獲得しています。

▼ 駆動トルク特性イメージ

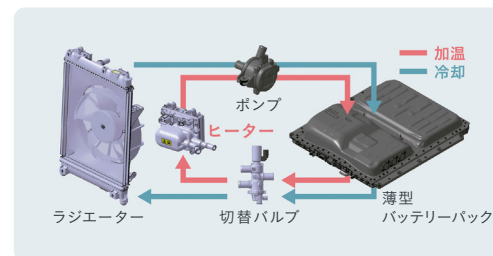


■ ゆとりの航続距離と空間価値を両立させる薄型バッテリーパック

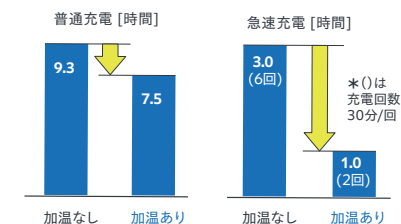
高エネルギー密度の薄型タイプを採用しました。バッテリーセルはラミネートパウチタイプとしセル個別の体積低減と高密度レイアウトを実現。バッテリーパック全体の薄型化・コンパクト化に貢献しています。これにより、N-ONEと同じフロア高さとしながら、WLTCモードで295km※2の一充電走行距離を達成しました。

■ 寒冷時にも性能を最大限に引き出すバッテリー加熱システム

リチウムイオンバッテリーは低温下で内部抵抗が増加し、航続距離や充電性能が低下します。N-ONE e:では、バッテリー温度が低下した際、通常は冷却に用いる水を加熱して循環させ、バッテリーを適温に保つバッテリー加熱システムを搭載しました。これにより、航続距離や充電性能の低下を抑制し、年間を通じて安定した性能を発揮させます。



マイナス10℃環境でのバッテリー加熱効果



※1 軽乗用EVとして、2025年9月時点。Honda調べ。
 ※2 国土交通省審査値。WLTCモードは市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。

日常使いで安心、クラストップ※2の航続距離。

日本におけるEVの普及を妨げる原因として、充電スタンドの少なさや航続距離の短さに対する不安が挙げられます。一方、軽自動車ユーザーの月間平均走行距離は約400km※3と短く、一日当たり20km程度※4の使用であることがうかがえます。これらのことから、普段づかいに

■クラストップ※2の航続距離。

29.6kWhの大容量バッテリーに加え、Honda独自の電動サーボブレーキシステムがもたらす優れたエネルギー回生能力により、WLTCモードで295kmの航続距離を確保。

一充電走行距離
(国土交通省審査値)

295km



交流電力量消費率
(国土交通省審査値)

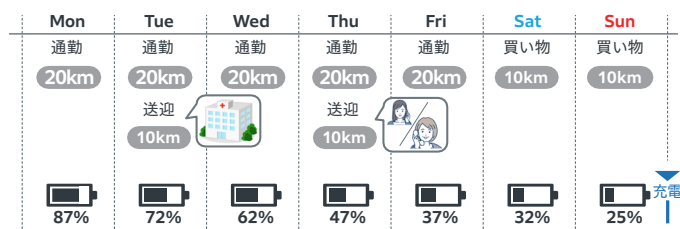
105Wh/km



WLTCモード：市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。

N-ONE e: の 充電サイクルイメージ

平日20kmの走行に加え、急なお出かけをした場合でも、週末までバッテリー残量に余裕があります。



* グラフはエアコンをつける必要のない、外気温15から25度を想定し算出しています。

余裕のある航続距離を目標に設定。エアコンの稼働が航続距離に大きく影響するEVにおいても、通勤などの普段づかいであれば、年間を通じて週一回程度の充電で使えるよう配慮しました。

■電費・航続距離を向上させるECONモード。

EVはエアコンの使用状況に応じて航続距離が大きく変化します。残りの航続距離に不安がある場合、ワンプッシュで電費を向上させ、航続距離に余裕を持たせるECONモードを採用しました。ECONボタンを押すとアクセル操作に対する加速を穏やかにするとともに、エアコンやシートヒーターを効率的に調整することで電力消費を抑え、航続距離を延長します。



※1 交流電力量消費率。1km走行するために必要な電力量。ガソリン車の燃料消費率とは反対に数値が小さいほど優れる。

※2 軽乗用EVとして、2025年9月時点。Honda調べ。

※3 一般社団法人 日本自動車工業会「調査結果軽自動車の使用実態調査報告書」(2021年度、2023年度)より。

※4 週5日(月20日)使用として推計。

利便性を徹底追求した充電機能とレイアウト。外部給電にも対応。

EVの大きな魅力のひとつが、自宅で充電でき、充電スタンドなどへ出かけるわずらわしさから解放される点です。しかし、週末の遠出などでは、高速道路のサービスエリアや商業施設などで充電する必要があることも事実。N-ONE e: は、さまざまな充電スポットを効率的に利用

■普通充電(6kW充電器対応)

大容量バッテリーを搭載するN-ONE e: は、容量の小さいEVより満充電までの時間を長く要します。そこで、近年、普及が進む高出力タイプの6kW(200V×30A)普通充電器に対応するとともに、バッテリーの温度管理などによって充電効率を高め、約4.5時間※1での満充電を可能にしました。

■急速充電(50kW充電器対応)

サービスエリアや商業施設などで急速充電する場合、1回あたりの充電時間が30分以内と定められていることが少なくありません。N-ONE e: は、高出力化が進む公共充電スポットに対応し、50kW急速充電器に対応。1回30分※2の充電で80%までの蓄電を可能にしました。



普通充電		急速充電
3.2kW	約8.5時間※1	約30分※2
6kW	約4.5時間※1	

できるよう、普通充電で普及が進む6kW充電器と、急速充電で主流の50kW充電器に対応。充電ポートの配置や充電リッドのロック解除方法にも工夫を施し、ストレスフリーな充電を追求しました。

■使いやすさを追求した充電ポート

充電ポートは、普通充電用、急速充電用の両方をフロントの高い位置に設定し、充電器との行き来や充電コネクタの操作を少ない姿勢変化で行えるようにしました。急速充電ポートのリッドは、降車前に開けられるよう車内にオープンスイッチを設定。家庭での利用が想定される普通充電ポートのリッドは、車外からも開けられるプッシュ式としました。Hondaスマートキーを所持していれば、ドアロック状態でもリッドを開けて充電できます。



■どこでも自在に給電

別売のAC外部給電器「Honda Power Supply Connector(パワーサプライコネクタ)」を利用すれば、最大1500Wの給電ができます。アウトドアでホットプレートや電磁調理器を利用するなど、楽しみ方が拡大します。



■非常時に安心感をもたらす高出力給電

別売のDC外部給電器(Power Exporter e: 6000など)を利用すれば、N-ONE e: から高出力給電が可能。万一の災害時に非常用電源となるほか、大型イベントなどで電源供給をすることができます。



※1 充電残量警告灯が点灯した時点から、満充電までのおおよその時間。

※2 充電残量警告灯が点灯した時点から、充電量80%までのおおよその時間(特に、夏季・冬季には充電時間が長くなる場合があります)。

ダイナミック性能



イキイキと活発な毎日を後押しする、街中ジャスト性能。

軽乗用車は、「ほとんど毎日」使う方が7割近くを占め、用途では、「買物」、「通勤・通学」が上位であり続けています※。ダイナミック性能は、日常の移動手段として使用するお客様が、より身軽・気軽に毎日を楽しめるよう、「街中ジャスト性能」をコンセプトに開発を行いました。

N-ONEの特長である優れた視界と取り回し性をベースに、EVならではのスムーズで力強い走りや静粛性を加え、ストップ・アンド・ゴーの多い市街地でもストレスなく移動できるよう、加速・減速・ハンドリングのすべてに磨きをかけました。



よく効くブレーキと素直な加速性能でストップ・アンド・ゴーの多い市街地でもストレスなく運転



視界がよく取り回しがしやすいから、住宅地の細い道でも安心して運転



力強い走りとコントロールしやすいハンドリングでカーブの上り坂もらくらく運転



フラットな乗り心地と静粛性で、家族や友人と会話がはずむクルーズ走行

街中ジャスト性能

楽々加速・楽々操作
身軽

静粛・クリーン
気軽

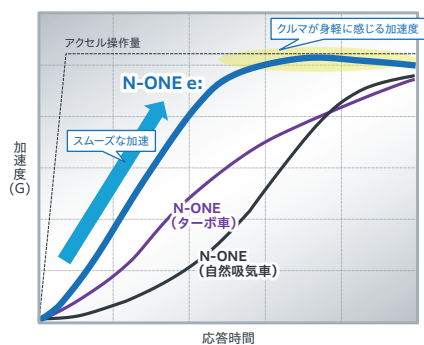
視界良好 快適空間

アクセル操作に、素直に、 スーッと反応する加速性能。

ストップ・アンド・ゴーの多い市街地や住宅街での運転を想定し、アクセル操作に対しリニアで伸び感があり、クルマが身軽に感じられる加速特性を実現しました。

■加速特性比較イメージグラフ

住宅街でのストップ・アンド・ゴーを想定
(アクセルペダル開度:40%)

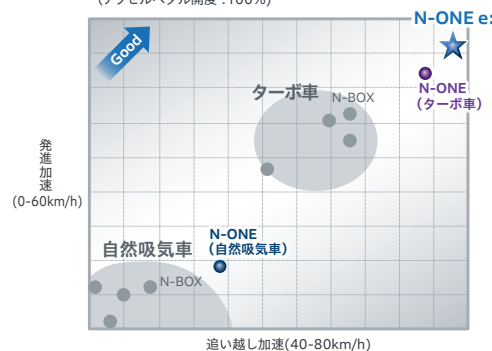


* Honda調べ。

発進加速では、まさしく「スーッと」という形容がふさわしいスムーズな加速を追求。モーター駆動のため、応答性をさらに高めることも可能ですが、扱いやすさをなによりも重視し設定しました。アクセルを踏んだ分だけリニアに加速感が伸び上がっていきます。

■発進・追い越し加速の位置づけ

バイパスなどへの合流や追い越しを想定
(アクセルペダル開度:100%)



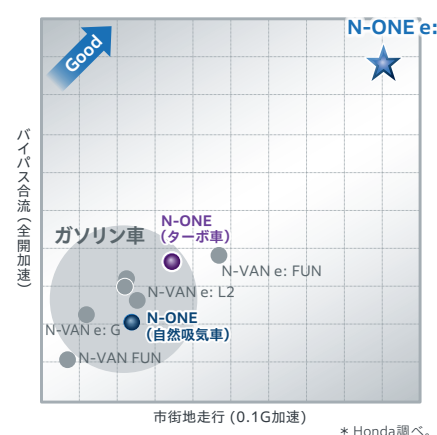
* Honda調べ。

バイパスなどへの合流や追い越しで強い加速が必要な場合、N-ONE(ターボ車)や従来の軽EVを上回る駆動トルクにより、ストレスのないスムーズな加速を実現します。

ドライバーのストレスを軽減し、移動中の会話を はずませるクラストップレベル※の静粛性。

エンジンを持たないEVは、ガソリン車やハイブリッド車に対して静粛性に優れています。N-ONE e: は、EV化によるノイズ低減や防音材の最適配置などにより、加減速時およびクルーズ時の静粛性を向上。市街地から高速道路まで会話がはずむ静かさを実現しました。

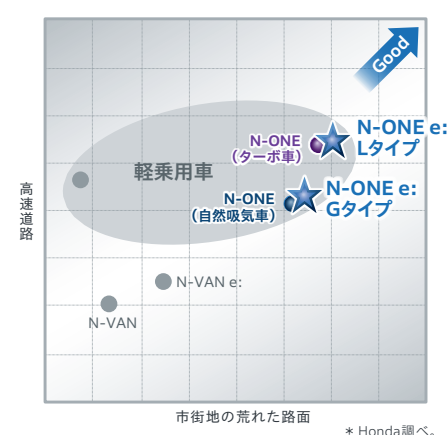
■加速時静粛性の位置づけ



* Honda調べ。

EV化によるモータールーム内のノイズ低減により、市街地での通常加速やバイパスへの合流加速などでガソリン車を大きく上回る静粛性を実現。

■クルーズ時静粛性の位置づけ



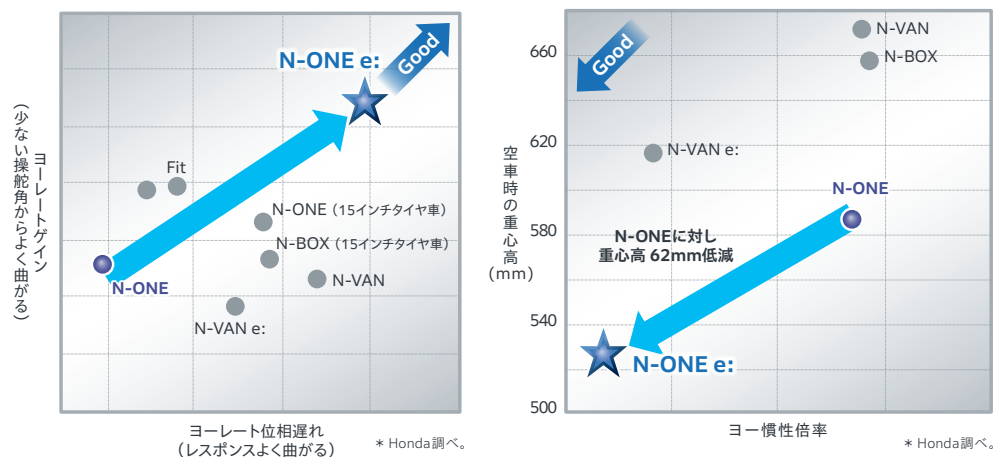
* Honda調べ。

防音材の最適配置によりクルーズ時の静粛性を向上。市街地の荒れた路面や高速道路を定速走行する際もN-ONE同等以上の静かさをストレスを軽減。

※ 軽乗用EVとして。2025年9月時点。Honda調べ。

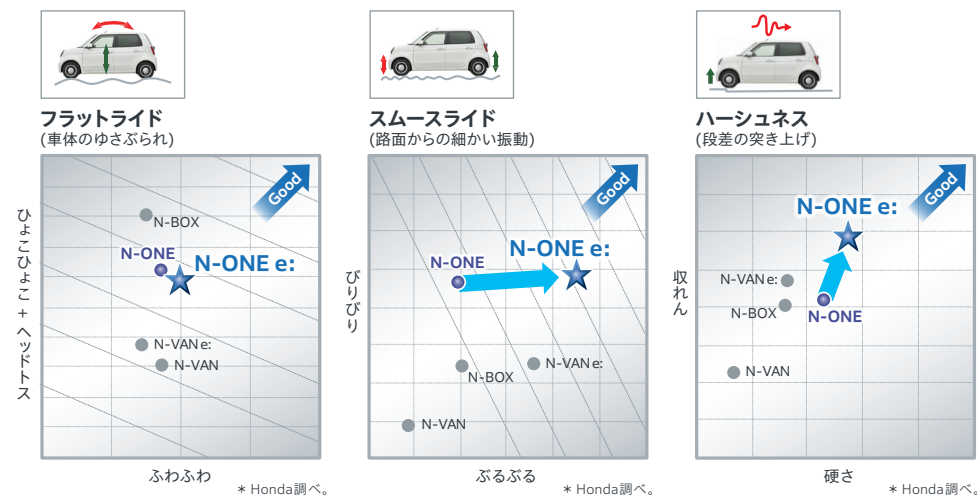
切り始めから遅れなく応答する リニアなハンドリング。

市街地や住宅街での扱いやすさを考慮し、切り始めから遅れなく応答するリニアなハンドリング特性を追求しました。重量物であるバッテリーを車体重心近くに搭載するN-ONE e: は、曲がりやすさの指標であるヨー慣性倍率※が小さく、また低重心であることからハンドリングに有利です。この優位性をさらに際立たせるため、サスペンションチューニングと合わせてステアリングギアレシオをN-ONEに対し18%クイックにしました。これにより、少ない操舵でよく曲がる特性を獲得。交差点を曲がる際や駐車場での取り回しを、より容易にしました。



ストレスを感じにくい、快適な乗り心地。

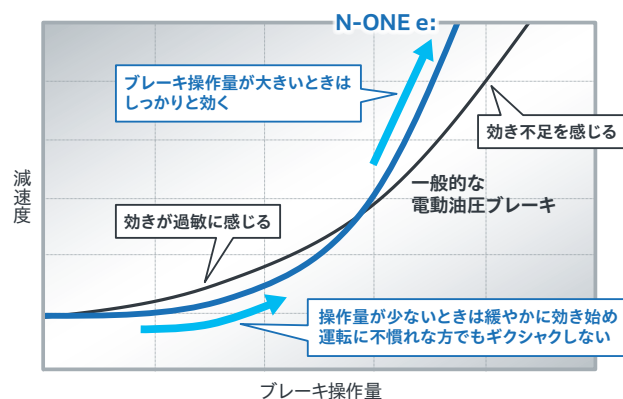
N-ONEのサスペンション構造を継承しながら、バッテリーの搭載などによる車重増に対応し、スプリングレートやダンパー減衰力などを最適にチューニング。比較的大きな揺れを評価するフラットライド指標ではN-ONE同等を維持するとともに、路面からの細かい振動を評価するスムーズライド指標や、段差による突き上げを評価するハーシュネス指標ではN-ONEを上回る性能を獲得。これらにより、さまざまな路面でストレスを感じにくい、快適な乗り心地を実現しています。



扱いやすく安心感のあるブレーキシステム。

ドライバーのブレーキペダル操作に応じ、電力回生による減速度と油圧ブレーキによる減速度を絶妙なバランスで組み合わせる電動サーボブレーキシステムを、N-ONE e: に最適化して採用しました。電動サーボブレーキシステムは、Hondaが、市販四輪車として世界で初めて採用した技術です※1。以来Hondaは、多くの電動車※2に搭載し効率的な電力回生と自然なブレーキフィールの両立を追求してきました。

N-ONE e: では、バッテリーの搭載などによる車重増にも関わらず、ブレーキ操作量に対して狙い通りの減速度が得られるよう制御を追求。踏み込み初期は緩やかに減速度が立ち上がり、踏み込むにしたがってリニアに減速度が増加する特性としました。これにより、唐突感や不足感のないスムーズなブレーキフィールを実現しています。



アクセルペダルだけで加減速から停止まで行えるシングルペダルコントロール※3。

アクセルペダルだけで加減速や停止、停止状態の保持まで行えるシングルペダルコントロールをHondaの軽乗用車として初めて採用しました。ペダルの踏み替え頻度を減らし運転負担を軽減します。N-ONE e: では、頻ばんな速度調整が必要な市街地での走行を考慮し、高い応答性と扱いやすい減速度を追求。アクセルの戻し操作に対して素早く減速度を立ち上げることで、交通状況の急な変化にも不安なく対応でき、また、停止までシームレスに減速できるよう設定しました。

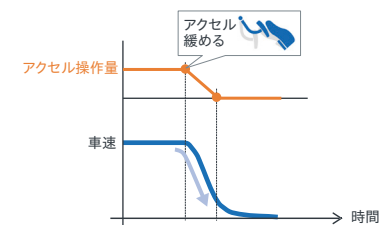
■街中で扱いやすい最適な減速度

市街地で扱いやすい減速度とするため、電動サーボブレーキシステムによるエネルギー回生量を最適制御。



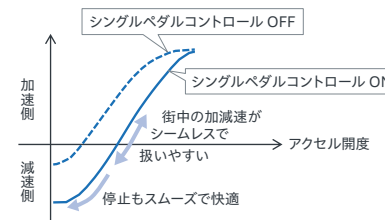
■急な交通変化へ対応ができる応答性

アクセルペダルを戻すと素早く減速を開始。交通状況の急な変化にも不安なく対応できます。



■思った通りに運転ができる加減速特性

アクセルペダルの操作に対し、加速度、減速度ともにシームレスに制御。自然なフィールで安心して加減速できます。



※1 FIT EV(2012年)に初搭載。

※2 ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、燃料電池車(FCEV)、EV。

※3 強いブレーキが必要な場面では運転者がブレーキペダルを操作してください。

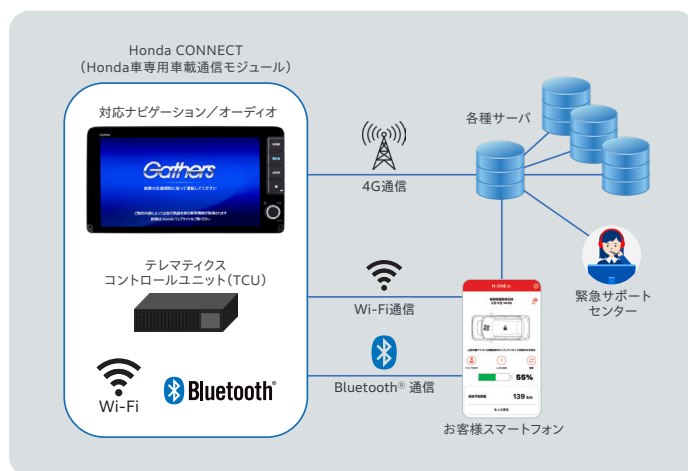
Honda CONNECT



安心・快適なEVライフをサポートする Honda CONNECT & Honda Total Care。

「Honda CONNECT」は、Honda車とお客様をつなぐ専用の車載通信モジュール。N-ONE e:では、このHonda CONNECTを活用した独自のコネクテッドサービスにより、お客様の安心・快適なEVライフをサポートします。

「Honda Total Care」に加入することで、EVライフをサポートするさまざまな機能を無料でご利用いただけます。「リモート充電・給電サポート」では、お客様のスマートフォンでバッテリー残量の確認や充電開始時間の指定などが可能。「EVカーナビ by NAVITIME」では、クルマと連携し充電スタンドを考慮したルートを表示するなど、EVライフに役立つ情報が利用できます。e: Lタイプでは、有料の「Honda Total Care プレミアム」がご利用いただけます。ボタンひとつでオペレーターが対応する「緊急サポートセンター」、車内でゲーム機やタブレットなどを便利に使える「車内Wi-Fi」など、より充実したサービスが利用できます。



■ナビゲーション & オーディオ

ナビとオーディオは、お客様のご希望や利用状況に応じて選択いただけるよう設定しました。

●9インチ Honda CONNECTディスプレイ

<ナビゲーション連動> <車載通信機> <スマートフォン用Bluetooth®オーディオ>
(e: Lタイプに標準装備)

9インチの大画面ディスプレイで、便利さと見やすさを兼ね備えます。EV向けナビゲーション機能も利用可能です。



●Honda純正オーディオ

8インチ ディスプレイオーディオ <Honda CONNECT対応>
(e: Gタイプにディーラーオプション)

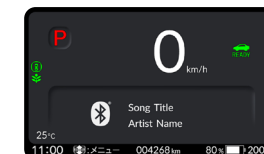
スマートフォンを車載ディスプレイで利用したい方へ向けたモデル。



LX-240ZFE
製造事業者: 株式会社ホンダアクセス

●Bluetooth®対応オーディオ(e: Gタイプに標準装備)

スマートフォンのオーディオを車内で利用したい方のために、シンプルなオーディオシステムを搭載しました。スマートフォンで再生した楽曲を車載スピーカーで楽しむことができます。スマートフォンを設定しておけばクルマに乗り込んでPOWERスイッチをONにするだけで自動的に接続。メーターディスプレイには曲名やアーティスト名などを表示します。ステアリングスイッチで音量調整や曲送りも可能です。



スマートフォンで利用できる、「Honda Total Care」の充電・給電サポートサービス。

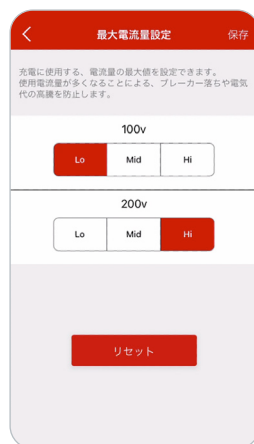
「Honda Total Care」に加入しHonda リモート操作アプリを利用することで、充電や給電に役立つサービス「リモート充電・給電サポート」を無料で利用可能。
より安心・快適なEVライフをサポートします。



●充電状態リモート表示
いつでもどこでもスマホ1つで充電状態を確認できます。



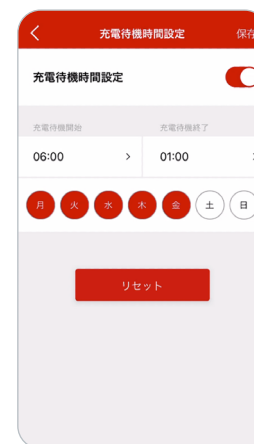
●最大充電量設定
充電最大量を設定することで、バッテリーの劣化を防ぎます。



●最大電流量設定
充電中のブレーカー落ちや、電気代の高騰を防ぎます。



●お出かけ前タイマー設定
車内およびバッテリーの温度を調整し航続可能距離を最大化します。



●充電待機時間設定
電気代が割安な時間に充電することで、電気代の高騰を防ぎます。



●外部給電下限SOC※設定
キャンプなどで外部給電される際、下限を設定することで、電欠を防ぎます。

※ 「State Of Charge」の略。充電率や残容量ともいう。

「Honda Total Care プレミアム」の多彩なサービス。

e: Lタイプに標準装備の9インチ Honda CONNECTディスプレイでは、無料の「Honda Total Care」に加え、有料の「Honda Total Care プレミアム」に加入することで、より多彩なサービスをご利用いただけます。

■Honda Total Care プレミアム サービス一覧

●Honda リモート操作

離れた場所でもクルマを操作。エアコンを事前に始動すれば、乗った時から車内は快適。^{※1}

●車内 Wi-Fi

車内が Wi-Fi スポットに。長時間の移動でも自宅のようなネット環境を楽しめます。

●緊急サポートセンター (エアバッグ展開時自動通報)

エアバッグが開くと同時に、オペレーターに自動通報。お客様の迅速な救命に努めます。

●緊急サポートセンター (トラブルサポートボタン)

あなたのクルマの状況を把握して、的確なサポートを提案。困りごとを解消します。^{※4}

●Honda デジタルキー

スマートフォンが、クルマのスマートキー代わりになります。^{※2※3}

●Honda ALSOK 駆けつけサービス (オプション)

離れた場所にあるクルマの異常をお知らせ。ALSOK のガードマンが現場に急行します。



●緊急サポートセンター (緊急通報ボタン)

緊急時、ボタンひとつでオペレーターにつながる。警察・消防に取り次ぎます。

●自動地図更新サービス

通信を通して、新しい地図に“自動”でカーナビゲーションを表示。最適なルートをご案内します。^{※5 ※6 ※7}

EV専用カーナビアプリとの連携でEVドライブの不安を軽減。

株式会社ナビタイムジャパンが提供するスマートフォン向けEV専用カーナビアプリ「EVカーナビ by NAVITIME(以下、EVカーナビ)」と機能連携し、バッテリー残量を考慮したルート案内(充電スタンドの追加)や航続可能範囲の地図表示など、EVドライブの不安を軽減する案内を実現しました。Honda Total CareのアカウントでEVカーナビにログインし、車両を選択することで、N-ONE e: とEVカーナビが連携。バッテリー残量などの情報をリアルタイムで反映し、高精度の航続可能距離予測に基づいて案内を行います。

■EVカーナビ by NAVITIMEの主な機能

●経路充電計画

ルート検索時に、車両のバッテリー残量推移を予測し、残量が少なくなる地点付近のEV充電スタンド情報と照らし合わせ、自動で充電場所と充電時間を組み込んだルートを表示します。

●航続可能範囲表示

車両のバッテリー残量に基づき、地図上に航続可能範囲をカラーで表示します。充電せずに目的地に到着できるかどうかの判断に役立ちます。

●充電スタンド検索

充電スタンドの空き状況や周辺施設(店舗、トイレなど)の情報を提供。充電中の時間を有効活用できます。

●目的地・経由地ナビ送信(e: Lタイプのみ)

EVカーナビで設定した目的地や経由地を、車載ナビゲーションに転送できます。



経路充電計画

航続可能範囲表示

※1 「Honda リモート操作アプリ」のダウンロードが別途必要となります。

※2 インターネット通信圏外又はインターネット通信の不安定な場所へ行く可能性のある場合や、スマートフォンの充電残量がなくなる恐れがある場合などは、機能が利用できなくなる恐れがありますので、本サービスの利用中であっても、Hondaスマートキーを携帯してください。

※3 スマートフォンを使ったドアのロック・アンロックの機能は基本パックのリモート操作でも可能です。本サービスのお申込によりスマートフォンによるエンジン始動の機能が追加でご利用いただけるようになります。

※4 Honda Total Care会員様からのお問合せに対し対応します。ただし、Honda JAFロードサービス(有料)にご加入いただくことなどでもご利用になれます。

※5 自車位置周辺及び目的地設定された周辺の地図をダウンロードします。

※6 インターナビ・ルートが取得できない場合やインターネット通信圏外の場合などは、工場出荷時の地図表示となる場合があります。

※7 「Honda Total Care プレミアム」基本パック解約時は、工場出荷時の地図に戻ります。

Honda SENSING / 安全性能



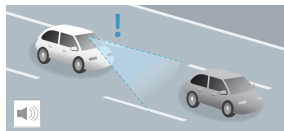
トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)を Hondaの軽自動車として初搭載。

Honda SENSINGは、「事故に遭わない社会」をめざして機能・性能を進化させてきたHondaの安全運転支援システムです。N-ONE e: では、毎日の運転にこれまで以上の安心・安全をお届けするために、機能を充実させて搭載しました。N-ONEに対し「近距離衝突軽減ブレーキ」※1や「急アクセル抑制機能」※2を追加したうえ、Hondaの軽自動車として初めてトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)を採用。市街地から高速道路まで、さまざまなシーンで安心をもたらします。

街中を走行するとき

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

車両や歩行者、人が乗車して移動する自転車との衝突回避を支援。

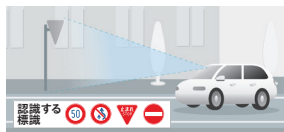


CMBS: Collision Mitigation Braking System

街中を走行するとき

標識認識機能

標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援。



駐車をするとき

誤発進抑制機能※1

不注意による急発進を防止し注意を喚起。



駐車をするとき

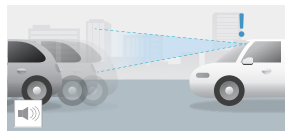
パーキングセンサーシステム※3

駐車時などに自車の前後の障害物を検知。



先行車発進お知らせ機能

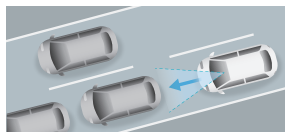
停車時に、先行車が発進したことをお知らせ。



高速道路を走行するとき

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

適切な車間距離を保ち、運転負担を軽減。



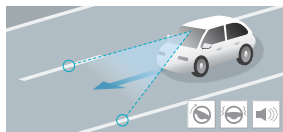
歩行者事故低減ステアリング

歩行者との衝突回避を支援。



車線維持支援システム(LKAS)

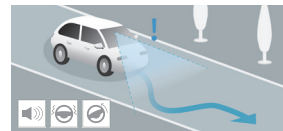
車線内を走行できるようにステアリング操作を支援。



LKAS: Lane Keeping Assist System

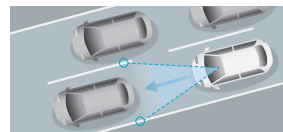
路外逸脱抑制機能

車線や草、砂利などの道路境界を検知し、はみ出さないように支援。



トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

高速道路などでの渋滞時、ドライバーの運転負担を軽減。



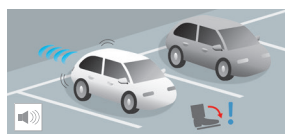
急アクセル抑制機能※2

ブレーキとアクセルペダルの踏み間違いによる急加速を抑制し、音と表示でお知らせ。



後方誤発進抑制機能※1

不注意による急な後退を防止し注意を喚起。



近距離衝突軽減ブレーキ※1

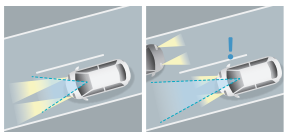
壁などの障害物の見落としによる衝突回避・被害の軽減を支援。



夜間に走行するとき

オートハイビーム

先行車や対向車を検知し、ハイ/ロービームを自動で切り替え。



※1 「誤発進抑制機能」、「後方誤発進抑制機能」、「近距離衝突軽減ブレーキ」を組み合わせて「踏み間違い衝突軽減システム」と呼びます。

※2 工場出荷時は機能オフの設定です。オンにするには別途販売会社の専用機器によるセッティング作業が必要です。別途セッティング費用(ディーラーオプション)が必要となります。

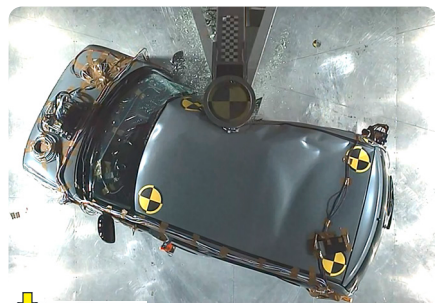
※3 ディスプレーオーディオの画面に表示するには、「9インチ Honda CONNECTディスプレイ」または対応するディスプレイオーディオが必要となります。

■イラストは機能説明のためのイメージ図です。

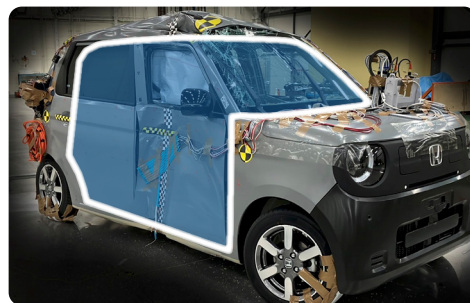
Honda独自の基準で磨き上げた衝突安全性能。多重衝突のリスクにも配慮。

■リアルワールドを見据えた衝突安全性能

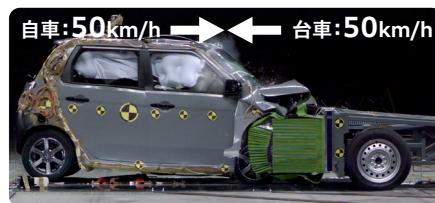
リアルワールドにおける乗員保護性能・歩行者保護性能のさらなる向上を追求しました。シートベルトには、万一の衝突時に肩ベルトを瞬時に引き込み、体を拘束するプリテンショナー機構をすべての席に採用。さらに運転席と助手席には、腰側のベルトも引き込むラッププリテンショナー機構を装備しました。



アルミ押し出しのバッテリーサイドブラケットでポール衝突エネルギーを吸収



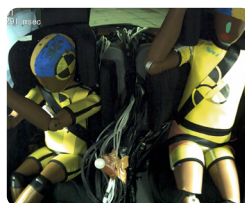
車体の変形量を低減し乗員とバッテリーを保護



相対速度100km/hで衝突する新たなCar to MPDB 台車衝突試験においてもキャビン保持し、乗員の生存空間を確保



ベルト引き込みイメージ

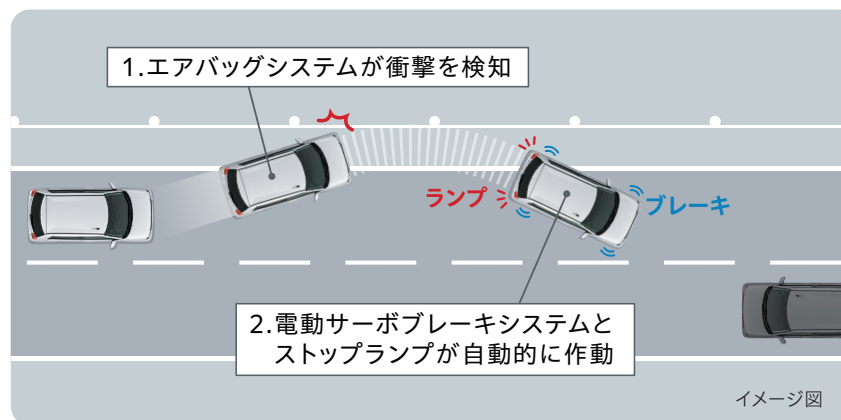


後席にもプリテンショナー機構を装備

■多重衝突事故※の危険を低減する衝突後ブレーキシステム

万一の事故の際、多重衝突事故の危険を低減する衝突後ブレーキシステムも搭載しました。エアバッグシステムが衝突などによる衝撃を検知して作動すると、ブレーキを自動作動させて減速、同時にストップランプで減速を周囲に知らせることで多重衝突による被害の軽減を図ります。

▼衝突後ブレーキシステム（ガードレール衝突時イメージ）



「Safety for Everyone」をグローバルスローガンに掲げるHondaとして
二次衝突被害を軽減する装備を継続採用

※ 多重衝突事故は一台の車両に対し複数回の衝突が発生する事故。

主要装備

		●	は標準装備	◎	はメーカーオプション
E V 仕 様 装 備	タイプ	e: G		e: L	
	駆動方式	FF		FF	
	普通充電ポート(外部給電機能付)※1※2	●		●	
	急速充電ポート(外部給電機能付(高出力対応))※1※3+急速充電リッドオープンスイッチ	◎		●	
安全 装備 ／ 運 転 支 援 機 能	【全タイプ標準装備】●普通充電ランプ				
	Honda SENSING (衝突軽減ブレーキ(CMBS)、先行車発進お知らせ機能、歩行者事故低減ステアリング、路外逸脱抑制機能、標識認識機能、 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)、車線維持支援システム(LKAS)、トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)、 オートハイビーム、誤発進抑制機能※4、後方誤発進抑制機能※4、近距離衝突軽減ブレーキ※4、パーキングセンサーシステム(フロント/リア)※5)		●		●
	急アクセル抑制機能		※6		※6
	【全タイプ標準装備】●ダイレクトプロジェクト式フルLEDヘッドライト(デイトタイムランニングランプ付(マニュアルレベリング/オートライトコントロール機構付)) ●運転席用&助手席用i-SRSエアバッグシステム ●前席用i-サイドエアバッグシステム+サイドカーテンエアバッグシステム(前席/後席対応) ●衝突後ブレーキシステム ●VSA(ABS+TCS+横すべり抑制) ●EBD(電子制御制動力配分システム)付ABS ●LEDハイマウント・ストップランプ ●エマージェンシーストップシグナル ●ヒルスタートアシスト機能 ●頸部衝撃緩和フロントシート ●フロント3点式ロードリミッター付プリテンショナーELRシートベルト+運転席/助手席ラッププリテンショナー ●リア3点式ロードリミッター付プリテンショナーELRシートベルト ●全席シートベルト非着用警報(シートベルトリマインダー) ●ISOFIX/i-Sizeチャイルドシート下部取付金具(リア左右席)+トップテザー取付金具 ●アジャイルハンドリングアシスト ●ECONスイッチ(ECONモード) ●イモビライザー(国土交通省認可品) ●セキュリティアラーム(国土交通省認可品) ●電子制御パーキングブレーキ ●オートブレーキホールド機能 ●半ドア警告アラーム ●熱線式リアウインドウデフォッガー ●サイドデフロスター ●チャイルドブルーフ				
快 適 装 備 ／ メ ー タ ー	Bluetooth® 対応オーディオ		●		
	Honda CONNECT for Gathers+ディスプレイオーディオ装着用スペシャルパッケージ		◎※7		
	9インチ Honda CONNECTディスプレイ				●
	スピーカー数		2 ※8		4
イン テ リ ア	【全タイプ標準装備】●運転席&助手席シートヒーター ●7インチTFT液晶メーター ●マルチインフォメーション・ディスプレイ(タイヤ角度モニター/オドメーター/パワーチャージ/パワーフロー/トリップメーター/外気温/平均電費/瞬間電費/平均車速/推定航続可能距離/経過時間/高電圧バッテリー温度計/ 安全支援情報/時計/カレンダー など) ●充電用USBジャック(Type-C(3A))※9 ●フルオート・エアコンディショナー ●Hondaスマートキーシステム(キー2個付)※10 ●チルトステアリング ●運転席ハイトアジャスター ●パワースイッチ ●粗塵フィルター ●リアシートリマインダー ●パワーウインドウ(運転席(挟み込み防止機構/キーオフオペレーション機構付)/助手席/リア左右席) ●パワードアロック ●ワンタッチウインカー ●ヘッドライトオートオフ機能 ●電動パワーステアリング ●ライト消し忘れ警告ブザー ●3段階開閉ドア(フロント/リア) ●アクセサリソケット(DC12V)				
	本革巻ステアリングホイール				●
	フロントマップランプ/リアルーフランプ		●		● LED
	【全タイプ標準装備】●パワーウインドウスイッチ照明 ●チップアップ&ダイブダウン機構付リアシート(5:5分割式/リクライニング機構付) ●パニティーミラー付サンバイザー(運転席(チケットホルダー付)/助手席) ●センターロングコンソールトレイ+ドリンクホルダー ●ドリンクホルダー(運転席) ●助手席シートバックポケット ●インパネワイドトレイ ●ドアロングブルポケット(運転席/助手席/リア左右席) ●ボトルホルダー付ドアポケット(全ドア) ●グローブボックス ●荷室床下収納スペース ●グラブレール(運転席/助手席/リア左右席)				
エク ス テ リ ア ／ ガ ス テ リ ア	電動格納式リモコンカラードアミラー		●		● オートリトラミラー
	【全タイプ標準装備】●フルLEDリアコンビネーションランプ(デイトタイムランニングランプ付) ●遮音機能付フロントウインドウガラス ●ドアモールディング(ブラック) ●360°スーパーUV・IRカット パッケージ(IRカット(遮熱)/UVカット機能付フロントウインドウガラス、IRカット(遮熱)/スーパーUVカットフロントドアガラス、IRカット(遮熱)/スーパーUVカットブライバシーガラス(リアドア/テールゲート)) ●LEDポジションランプ&LEDフロントターンランプ ●LEDドアミラーウインカー ●車速連動間欠/バリアブル間欠フロントワイパー(ミスト機構付) ●ウオッシャー付間欠リアワイパー(リバース連動) ●フロントウインドウウオッシャー(スプレータイプ)				
	14インチスチールホイール+スチールラジアルタイヤ+ハーフホイールキャップ(ピューターグレイ)		●		
	14インチアルミホイール(ピューターグレイ/切削シルバー)+スチールラジアルタイヤ				●
走 行 関 連 支 援 メ カ ニ ズ	【全タイプ標準装備】●シングルペダルコントロール ●フロントスタビライザー ●リアスタビライザー ●応急パンク修理キット(スペアタイヤレス)※11 ●フロントベンチレーテッドディスクブレーキ ●電動サーボブレーキシステム				

※1 充電・給電機器の操作は、植込み型心臓ペースメーカー等の医療用電子機器に影響を与える可能性があります。※2 給電には別途、ディーラーオプションのAC外部給電器が必要です。※3 サービスエリアや商業施設などにあるCHAdeMO規格の急速充電器で充電する場合や、CHAdeMO規格のV2H機器などの高出力外部給電機能に接続する場合には必要になります。高出力給電には別途、対応するDC外部給電器が必要です。※4 「誤発進抑制機能」、「後方誤発進抑制機能」、「近距離衝突軽減ブレーキ」を組み合わせて「踏み間違い衝突軽減システム」と呼びます。※5 ディスプレーオーディオの画面に表示するには、「9インチ Honda CONNECTディスプレイ」または対応するディスプレイオーディオが必要となります。※6 工場出荷時は機能オフの設定です。オンにするには別途販売会社の専用機器によるセッティング作業が必要です。別途セットアップ費用(ディーラーオプション)が必要となります。※7 「Honda CONNECT for Gathers+ディスプレイオーディオ装着用スペシャルパッケージ」装着車でBluetooth®接続により音楽などを再生する場合、対応するディスプレイオーディオが必要となります。※8 「Honda CONNECT for Gathers+ディスプレイオーディオ装着用スペシャルパッケージ」装着車は、4スピーカーとなります。※9 「9インチ Honda CONNECTディスプレイ」装備車、「ギャズ ディスプレーオーディオ」装着時には、音楽・映像メディアと接続できるUSBジャック(Type-A)が使用可能となります。※10 Hondaスマートキーシステムは、施錠・解錠のときなどに電波を発信します。その際、植込み型心臓ペースメーカー等の医療用電子機器に影響を与える可能性があります。※11 工具(ジャッキ/ジャッキハンドルバー/ホイールナットレンチ(兼ジャッキハンドル))は装備していません。

■メーカーオプションは組み合わせによっては同時装着できない場合がございます。また、他のメーカーオプションとセット装着になる場合がございます。

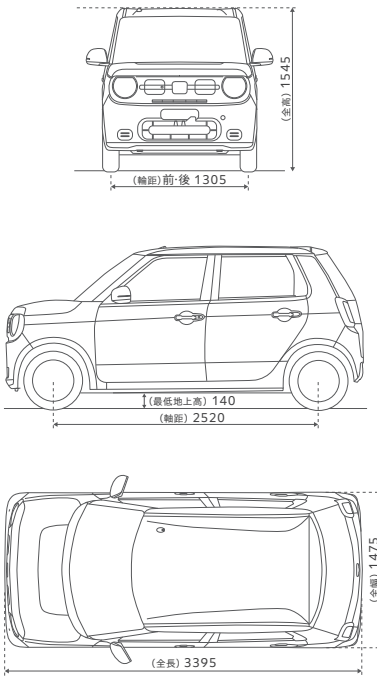
■仕様ならびに装備は予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

主要諸元

	タイプ		e: G	e: L
	駆動方式		FF	
	車名・型式		ホンダ・ZAA-JG5	
乗車定員・寸法	全長(m)/全幅(m)/全高(m)		3.395/1.475/1.545	
	最低地上高(m)		0.140	
	車両重量(kg)		1,030	
	乗車定員(名)		4	
	客室内寸法(m)	長さ 幅/高さ	2.040 1.300/1.170	2.010
(モーター)	型式		MCF7	
	種類		交流同期電動機	
	定格出力(kW)		39	
性能	電動機(モーター)		最高出力(kW[PS]) 最大トルク(N・m[kgf・m])	47[64] 162[16.5]
	一充電走行距離(国土交通省審査値)		WLTC  km	295
			WLTC  Wh/km	105
	交流電力量消費率(国土交通省審査値)		市街地モード(WLTC-L) Wh/km	76
			郊外モード(WLTC-M) Wh/km	96
			高速道路モード(WLTC-H) Wh/km	124
主駆動力	最小回転半径(m)		4.5	
	種類/容量(Ah)		リチウムイオン電池/82.7	
	総電圧(V)		358	
走行性能	最終減速比※		11.001	
	タイヤ		前・後 155/65R14 75S	
	サスペンション方式		前/後 マクファーソン式/車軸式	
	スタビライザー形式		前/後 トーション・バー式/トーション・バー式	

■一充電走行距離や交流電力量消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて数値は大きく異なります。とくに1日当たりの走行距離、バッテリーの充電状態、エアコン使用による影響を大きく受けます。■WLTCモード:市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。市街地モード:信号や渋滞等の影響を受ける比較的低速な走行を想定。郊外モード:信号や渋滞等の影響をあまり受けない走行を想定。高速道路モード:高速道路等での走行を想定。
■主要諸元は道路運送車両法による型式指定申請数値(※の数値はHonda測定値)。■N-ONE、e:、Honda SENSING、LKAS、VSAは本田技研工業株式会社の商標です。■Apple CarPlay、iPhoneは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。■iOSは、Apple Inc.のOS名称です。IOSは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の国々における登録商標または商標であり、ライセンスに基づき使用されています。■Android およびその他のマークは Google LLC の商標です。■互換性のある Android スマートフォンと互換性のあるアクティブなデータ プランが必要です。■CHADEMOは一般社団法人CHADEMO(チャデモ)協議会の登録商標です。■DURABIOは三菱ケミカル株式会社の商標です。■Bluetooth®は米国Bluetooth SIG, Inc.の登録商標です。■Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。■製造事業者:本田技研工業株式会社

寸法イメージ図 e: L 単位:mm



環境仕様

基礎情報	車両型式		ZAA-JG5
	型式	MCF7	
	電動機(モーター)	最高出力(kW[PS]) 最大トルク(N・m[kgf・m])	47[64] 162[16.5]
環境性能情報	駆動装置		駆動方式 FF
	電力消費率*1	一充電走行距離(km)	295
		交流電力量消費率(Wh/km)	105
		市街地モード(WLTC-L)	76
	電力消費率*2	郊外モード(WLTC-M)	96
		高速道路モード(WLTC-H)	124
	適合排出ガス規制		排出ガス規制の適用を受けない自動車
	適合騒音規制レベル		平成28年騒音規制 規制値:加速走行68dB(A)
環境性能情報	エアコン冷媒		種類/GWP値*3 HFO-1234yf/1 *4
	使用量		320g
	車室内VOC		自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)
	環境負荷		鉛 自工会2006年目標達成(1996年使用量*5の1/10)
	物質削減		水銀 自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止*6)
			六価クロム 自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)
			カドミウム 自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)
環境への取り組み	樹脂、ゴム部品への材料表示		100g以上の樹脂部品全て
	リサイクル		リサイクルし易い材料*7を使用した部品 ウインドウモール類、バンパーフェースなどの内外装部品
	再生材を使用している部品		エアアウトレット、グリル、吸音材
	リサイクル可能率		車全体で95%以上*8
その他	グリーン購入法適合状況		グリーン購入法適合車

*1 一充電走行距離や交流電力量消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて数値は大きく異なります。とくに1日当たりの走行距離、バッテリーの充電状態、エアコン使用による影響を大きく受けます。*2 WLTCモード:市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。市街地モード:信号や渋滞等の影響を受ける比較的低速な走行を想定。郊外モード:信号や渋滞等の影響をあまり受けない走行を想定。高速道路モード:高速道路等での走行を想定。*3 GWP: Global Warming Potential(地球温暖化係数)
*4 フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められています。*5 1996年乗用車の業界平均使用量は1850g(バッテリーを除く)。*6 交通安全上必須な部品の極微量使用を除外。*7 ポリプロピレン、ポリエチレンなどの熱可塑性プラスチック。*8「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン(1998年 自工会)」に基づき算出。※ この環境仕様書は2025年9月現在のものです。